

## 世代を超え、長く愛される存在に

令和7年11月に古民家カフェ <sup>ひいらぎ</sup> 柁を開店して半年が過ぎました。地元のお客様を大切に、長く親しまれるお店を目指しています。

出店した肱南地区（本町3丁目）は、地元の方だけでなく外国人観光客も多いエリアですが、昼食を提供する飲食店が少なかったことに可能性を感じ、酒屋だった古民家をカフェに改修して、店をオープンしました。現在、お客様の8割は日本人で、多くは市内や周辺市町からのお客様です。

大洲市で生まれ育った私は、大学時代を京都で過ごし、その後、就職した大手アパレルメーカーで妻と出会い、勤務地の埼玉で忙しい日々を送っていました。いつか帰郷し、大洲に貢献したいという気持ちがありましたが、その思いを強くしたのは、平成30年7月豪雨の災害報道やSNS画像で映し出された大洲の様子に衝撃を受けたときです。故郷への思いが強まる中、まずは愛媛に帰り、松山市でクラフトビール企業のマーケティング広報に携わったり、妻が手作りするフランス発祥の焼菓子・フィナンシェの店を経営したりする中でビジネスキャリアを積みました。

令和7年になって、松山での仕事や、大洲の実家のことなど、条件やタイミングがかみ合ったこともあり、出店を決めました。地元の食材を生かしたメニュー作りや、資金調達のためにクラウドファンディングを行い、地域課題ともいえる“ランチ難民”の需要に応えることは、「社会的価値がある」と資金提供を呼びかけ、オープンが実現しました。

店名の「柁」と、オープン日の11月13日は、大切な家族の名前や誕生日に由来しています。世代を超えて100年続き、多くの人に愛される存在になるよう、未来への努力を続けていきたいと思っています。

# 未来を拓く

～次代へつなぐ～



### 古民家カフェ 柁

オーナー

村上 慎

しん

さん (写真右)

妻の美由紀さん（写真左）と共に地元産メニューで来客をもてなす。夢はワイン造りで、「フィナンシェやワインが大洲を代表する商品として、いつか世界ブランドになれば」と語る33歳。

## 大洲の風景



道の駅のアジサイ（肱川町宇和川） 6月1日(月)撮影

## 今月の表紙



6月6日(土)、榎谷棚田の田植え体験に参加した家族を撮影。子供たちは泥だらけになりながら、時折おたまじゃくしを追いかけて、一生懸命に苗を植えていました。